

キリアイ *Limicola falcinellus* (Pontoppidan)

【選定理由】

春秋の渡りの季節に伊勢・三河湾の干潟、干拓地の水田や湿地、埋立地の水溜りなどに飛来するが、春の飛来は単独の場合が多く、飛来頻度もかなり低い。トウネンやハマシギのように数の多い種ではないが、県内で最も飛来数の多かった汐川干潟では、1976年9月15日に154羽の記録がある。1989年にも35羽の記録があるが、その後激減して現在では飛来そのものが希になっている。2004年以降に10羽以上が確認されているのは全て三河湾の埋立地であるが、現在では県内からシギ・チドリが飛来できる水溜まりのある埋立地がほぼ全て消失していることから、今後県内で確認される機会が大きく減少することが危惧される。

【形態】

全長 16～18cm、翼開長 37～39cm。頭部から上面にかけて茶褐色で黒い軸斑があり、幼鳥は背に黄白色のV字の線がある。頭頂には白い頭側線と眉斑があり、嘴は長くて幅があり、先端が少し下方に曲がる。脚は黒色。



愛知県碧南市, 2009年8月15日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りの季節に伊勢・三河湾沿岸の干潟や水田などの湿地、埋立地の水溜りなどに飛来する。また、ごく少数であるが内陸の水田に飛来することもある。飛来数は秋が圧倒的に多く、春の飛来はごく僅かである。

【国内の分布】

春秋の渡りで全国の主に沿岸部に飛来して、干潟や湿地、水田などに生息する。

【世界の分布】

スカンジナビア半島北部、シベリア北部で繁殖し、中東、インド、東南アジア、オーストラリアで越冬する。2亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

主に春は4～5月、秋は8～10月頃に飛来し、干潟や干拓地の水田や水路、埋立地の水たまり、少数ではあるが内陸の水田などにも飛来する。過去に県内で最も多くの飛来があったのは干潟であるが、2000年代半ば以降は干潟より埋立地の水溜りでの記録が多くなっている。ビュービュー、あるいはジュルービュルーなどと鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の飛来地として、庄内川河口周辺、汐川干潟周辺、矢作川河口周辺、一色干潟周辺などがあげられるが、近年庄内川河口周辺と汐川干潟周辺では確認されない年の方が多い。最も安定していたのは矢作川河口周辺の埋立地と一色干潟周辺の干拓地のみであるが、矢作川河口周辺の埋立地からは生息環境が消失し、一色干潟周辺の干拓地には現在産廃処理場建設計画がある。

【保全上の留意点】

沿岸部に残る湿地を保全することは当然であり、環境の回復に努める必要がある。愛知県では、干拓地や埋立地の遊休地に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要な時代になっている。

【特記事項】

本種はハマシギやトウネンなどに比べて数の少ない種であるが、特に日本に飛来する東シベリア産の亜種 *L. f. sibirica* は数が少ないとされている。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.127. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)